

招 へ い 研 究 者 報 告 書

招へい研究者氏名	リスボン大学海洋環境科学センター、ブルーノ・ピント			
招へい期間	(西暦) 2022年7月2日～2022年7月25日			
受入機関	関西大学文学部			
受入担当者	所属	文学部	資格	教授
	氏名	溝井裕一		
講演会実績				
<p>○研究者向け講演会タイトル：「ヨーロッパの報道において「海」はいかに語られているか」</p> <p>○日時：7月21日</p> <p>○概要：本講演は、ブルーノ氏が以前行った研究をベースにしたもので、2002年から2010年のポルトガル高級紙における「海」にかんする報道の内容に焦点を当てている。2002年はスペイン北方における石油事故が発生した年にあたり、2010年にはメキシコ湾原油流出事故が発生している。この間の報道内容を調べると、当然事故関係の報道がメインであったが、それでも海関係の報道自体は全体に比べて多いとはいえ、かつ科学的な内容のものはさらに少なかったという。またこれとあわせて、海をめぐる報道に関与しているヨーロッパ13か国のジャーナリストにインタビューした結果もお話しされた。そこから明らかになったのは、大国ほど海洋関係の報道にリソースを割くことができるが、中小国になるとジャーナリスト自体の数が限られているため、海に関する報道が減少する傾向にあることや、多くのジャーナリストが関心を寄せているテーマは気候変動であることであった。</p> <p>○学生向け講演会タイトル：「ポルトガルの水族館—19世紀から現代まで」</p> <p>○日時：7月12日</p> <p>○概要：ブルーノ氏は、ポルトガルが日本と同様に海を深くかかわってきた歴史があることを最初に述べ、ヴァスコ・ダ・ガマ水族館(1898)が建設されたプロセスとその背景について触れた後、同館がたどった紆余曲折について解説された。さらに、リスボン・オセアナリウム(1998)をとりあげ、ここが海遊館と同じく沿岸地域の再開発を目指して建設されたこと、海遊館と同じ建築家に関与していることを紹介し、同館の教育や保全活動、日本のアクアリストが作った展示についてもお話しされた。</p>				